令和５年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　浅川　　小学校の結果分析と今後の取組について

　文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和５年４月１８日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

　この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

　学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

　なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

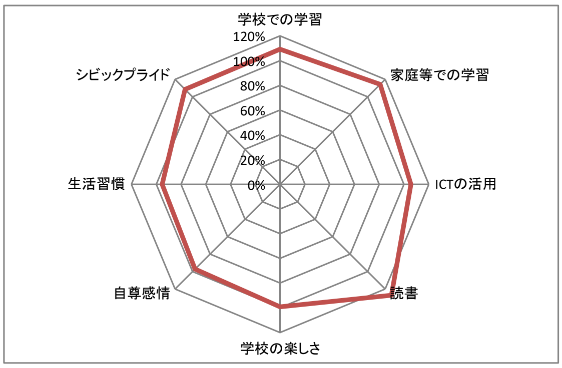
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	目的に応じて、文章と図表などを関連付けるなどして必要な情報と結び付けたり、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したりする力は養われている。文章の種類とその特徴について理解しているかについて、また、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力については、課題がみられた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	B書くこと、C読むこと	
	努力が必要な問題	A話すこと・聞くこと	

算数	全体的な傾向や特徴など	伴って変わる二つの数量について、変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めたり、比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述したりする力は養われている。図形の意味や性質の理解に関することや（２位数）÷（１位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることに関しては、課題がみられた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	C変化と関係	
	努力が必要な問題	A数と計算、B図形	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれぐらいの時間勉強をしているか」や「学校が休みの日に、１日当たりどれぐらいの時間勉強をしているか」に関して、６割以上の児童が「１時間以上している」と答えており、全国平均を１０ポイント以上、上回っている。
・「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したか」に関して、８割以上の児童が肯定的な回答をしている。
・「授業でICT機器をどの程度使用しているか」に関して、９割以上の児童が肯定的な回答をしている。教師が進んでICT機器を活用した授業づくりを進め、児童にも浸透してきている。
・「学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、読書をしているか」に関して、「３０分以上」と回答した児童が６割を超えていた。全国平均を３０ポイント近く上回っており、朝の読書や業間読書の実施が、読書に親しむ児童の育成につながっていると考える。
・「自分にはよいところがある」と回答した児童の割合が低かった。子どもつながりプログラムなどを活用し、自己を見つめ直したり、仲間と互いに協調して取り組んだりして、自己肯定感や仲間意識を高められるようにする。
・毎日の朝食や起床・就寝時刻は、全国平均と比較しても課題が見られた。保健指導等を通して、生活習慣を整える大切さを喚起していく必要がある。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

　国語科は「話すこと・聞くこと」に課題が見られた。そこで、事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりする活動や尋ねたり、応答したり、グループで話し合って考えを一つにまとめたりする活動を学習や朝の会等で設けていく。算数科では、「A数と計算」「B図形」に課題が見られた。「数と計算」では、低・中学年で整数の計算能力を、中・高学年で小数・分数の計算能力を反復練習の中で正確に身に付けられるようにする。「図形」では、様々な図形をかいたり、作ったり、敷き詰めたりと体験活動を通して、感覚を養うようにする。

②　家庭生活習慣等に関する取組

　学期に一度家庭学習チャレンジ週間を設けて、家庭学習に集中的に取り組めるよう時間を確保している。また、チャレンジ週間では保護者に手紙を配布し、家庭学習の行い方を啓発している。その他にも自学ノートを校長に提出したり、展覧会を行ったりすることで家庭学習への意欲が高まってきている。